



10歳以上 | 2~6人 | 20分



ゲームデザイン：戸塚中央
 アートディレクション・DTP：有我悟
 イラストレーション：Makiko Kodama

説明書 1枚
 カード枚数 84枚 (6色 × 13枚、ジョーカー × 6枚)

概要

このゲームはトランプゲーム「殺しの七並べ / 虫食い七並べ」をベースにしています。

プレイヤーはギャングのボスで、縄張りを巡って対立しています。最大勢力となるべく、敵対勢力の構成員を殺害して町を支配することをめざります。生き残り、かつ、より多くの敵対者を殺害しましょう。

準備

各プレイヤーにジョーカーを一枚ずつ配ります。
 配られたジョーカーは表向きにして各プレイヤーの場の前に置きます (このジョーカーは各プレイヤーが使用できるカードの一部ですが、手札には数えません)。余ったジョーカーは使わないので箱に戻します。

- ・3-4人プレイ時には紫のカード13枚を抜いた65枚を用います。紫のカードは使わないので箱にしまってください (紫のカードだけ文字色が白抜きです)
- ・5-6人プレイ時にはすべてのカードを用います。

カードの中から「7」のカードすべてを抜き出し、テーブル中央へタテに並べます。

残りのカードを良く混ぜ、規定の枚数を抜き出して場へ表向きに配置します。7並べの要領で、7のカードを中心に、右から左、あるいは左から右に1から13までのカードが並ぶよう配置して下さい (図1)。

もし、カードを配置した時点で殺されるカードができたなら (【殺しについて】を参照して下さい)、カードは配り直して下さい。**初期配置で、最初から殺されるカードができることはありません。**

場にカードを配置した後、残りのカードを手札として配り切ります。

【プレイヤー人数ごとの場札と手札の枚数】

人数	場	手札
6人	6	11
5人	7	13
4人	8	13
3人	9	17



カードの配置は適宜調整して下さい。
 7のカードの配置順に決まりはありません。

場にカードを置く際には、なるべくそのカードの色と数字に該当しそうな場所に置いてください。

ゲームの流れ

- ・スタートプレイヤーを適当に決めます。
- ・スタートプレイヤーから時計回りに手番が回ります。

【手番で行うこと】

手番になったら、手札からカードを一枚場に出します。カードは、**既に場に出ているカードのタテ・ヨコ・ナナメに隣接している場所のみ出すことができます。**「ナナメに隣接」とは、カード同士が角で接している状態を言います。このゲームは七並べと異なり、パスの概念はありません。あなたが場に出せるカードを手札の中に一枚でも持っていたら、必ず場に出して下さい。出せるカードが手札に無い場合には、好きなカードを一枚場に出します。この場合には、他のカードと隣接していない位置にカードを置いても構いません (カードの配置場所はあらかじめ決まっていることを忘れないで下さい)。

【殺しについて】

場に出されたカードによって、正方形ないし長方形に空間 (カードのないスペース) が囲われた場合、その空間に配置されるはずだったカードはすべて殺されます。殺されたカードを持っていたプレイヤーは、殺したプレイヤーにそのカードを渡します。殺したプレイヤーは、受け取ったカードを裏向きにして、枚数が分かるように場に並べます。これらのカードはジョーカーとは分けておいて下さい。

場札の配置された外周には、見えない壁があるものとします。つまり、カードを囲って殺すには、カードだけでなく、見えない外周の壁も利用できるのです。(図2)

殺せるカード枚数の上限は5枚です。6枚以上の空間を囲っても、中のカードは生きてると見なされます。(図3)

長方形や正方形以外の形に周りを囲っても (例えばL字型に外周を囲われた場合) カードは生きています。(図4)

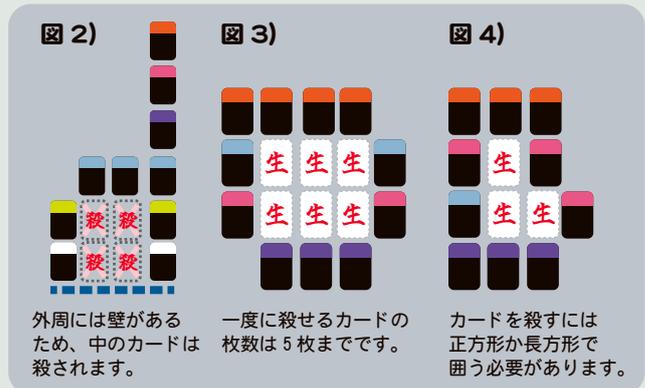
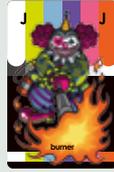


図2) 外周には壁があるため、中のカードは殺されます。

図3) 一度に殺せるカードの枚数は5枚までです。

図4) カードを殺すには正方形が長方形で囲う必要があります。

場にカードを出したプレイヤー本人の手札が殺されることがあります。そのカードは表にしてヨコ向きに置き、他プレイヤーから受け取ったカードと区別が付くようにしてください（これを同士討ちカードと呼びます）。(図5)



【ジョーカーについて】

各プレイヤーはゲーム中に一度だけ、自分の手番に追加アクションとしてジョーカーを使うことができます。

ジョーカーは、手札を場に出す前、後のどちらに出してもかまいません。ただし、**ジョーカーだけを場に出して手番を終えることはできません。**

ジョーカーも通常の手札と同様、既に出た場札のタテ・ヨコ・ナメのいずれかに隣接して出す必要があります。

ジョーカーが場に出された場合、本来その場所に置かれるカードを持っているプレイヤー（自分含む）は、そのカードをジョーカーに重ねて出します。

ジョーカーによって「殺し」が発生した場合、ジョーカーを出したプレイヤーが殺したカードを獲得します。

【ジョーカーについての細則】

- ジョーカーは手札ではありません。
- いかなる状況においても場に出すことを強要されません
- いかなる状況においても単体で出すことはできません

ゲームの終了

ゲーム中のどのタイミングでも（手番でなくても）、手札がすべてなくなったプレイヤーが出たら、その瞬間にゲームは終了します。手札がなくなったプレイヤーはゲームから脱落します。ジョーカーは手札に数えません。

プレイヤーが手札に最後の一枚を残した状態で自分の手番を迎えた場合、最後の1枚を出した瞬間にゲームは終了します。そのため、そのカードによる殺しは発生しません。ただし、手札1枚とジョーカーを残していたら、「ジョーカーを出してから」最後の手札を出してもかまいません。この場合、ジョーカーによる殺しは発生します。

※手札を先に出した場合、即ゲームが終了するためジョーカーを使用することはできません。

また、手札1枚でジョーカーを出した時に、ジョーカーの上に重ねた他プレイヤーのカードが、そのプレイヤーの最後の手札だった場合には、ジョーカーに乗せたカードによる脱落処理が発生します。そして、そのカードでさらに殺しが発生した時に、手札を使い切ったプレイヤーがいた場合には、そのプレイヤーも同時に脱落し、ゲームが終了します。

勝利条件

手札が残っている（脱落していない）プレイヤーの中で、殺したカードが最も多いプレイヤー（最多殺害者）が勝利します。同士討ちカードは「殺したカード」に含めません。

最多殺害者が複数いる場合、同士討ちカードの枚数が最も少ないプレイヤーが勝ちます。

最多殺害者が複数いて、同士討ちカードの枚数も同じ場合には、残り手札の枚数が多い方が勝利します。

最後に手番を行ったプレイヤーの手番によって全プレイヤーが脱落した場合、最多殺害者が勝利します。最多殺害者が複数いる場合、同士討ちカードの枚数が少ない方が勝利します。

上記ルールの条件が全て同じ場合には、より殺し屋っぽい人が勝利します。

2人プレイ

2人プレイではNPCが追加されます。

ゲームの準備は3人戦と同様に、場に9枚を配置し、手札を17枚配ります。

残った17枚は山札にし、NPCの手札となります。

プレイヤー2人が手番を行った後、NPCの手番を行います。NPCは手番に、山札を上から1枚めくって場に配置します。

NPCのカードは隣接のルールを無視します。

- NPCの手番で殺された場合、殺されたカードはNPCの山札のそばに置きます。山札と区別できるように置いて下さい。
- 殺されたカードがNPCの山札の中にある場合、そのカードを殺したプレイヤーは殺したカードを手に入れることができません。そのため、NPCの手番で既に殺されているカードがめくられることがあります。その場合も、通常通り殺されたカードを場に配置してください。
- 先に手札がすべてなくなったプレイヤーが敗北し、手札が残っているプレイヤーの勝利です。

ヴァリエントルール

もっと戦略的に遊びたいという、ゲームに慣れてきた人向けの選択ルールです。

「7」のカードすべてを抜き出し、テーブル中央へタテに並べます。その後、残ったカードをよく混ぜ、各プレイヤーに全て配ります。盤面初期配置カードとして、スタートプレイヤーから順に、1枚ずつ好きな場所にカードを配置していきます。

この時、カード配置のルールを無視して、**他のカードと隣接していない位置にカードを置いてかまいません。**

ただし、殺しが発生するようなカード配置はできません。

※5人時のみ、最初にカード2枚をランダムに引いて、配置してから手札を配ります。抜き出したカードを配置した時点で殺されるカードができれば、再度カードを引き直して、手札を配ってください。

【プレイヤー人数ごとの場札と手札の枚数】

人数	場
6人	各1枚
5人	各1枚
4人	各2枚
3人	各3枚



発行 : Mazy Machine
 企画 : 秘教機械
 web : <http://tantramachine.com>
 mail : arughasatoru@gmail.com



Special thanks:

名古屋テストプレイ会、あかつき、ひろ、さいとうあきら

サポート(Q&A)